

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】 児童生徒の実態や活動場所に即した適切な避難経路・場所の選択		
学校名	県立防府総合支援学校		
日時	平成25年5月7日（火）～7月18日（木）		
場所	ソルトアリーナ防府 高等部棟2階	参加者	児童生徒・教職員

1 訓練のねらい

- (1) 防災に対する日頃からの意識の向上を図る。
- (2) 避難場所への移動時間が、児童生徒の実態によりどの位かかるかを知る。
- (3) 訓練を行った中で、避難誘導の際の問題点等を検討する。

2 訓練の概要

- (1) 想定状況
 - ・ 東南海・南海地震(M8.5、最大震度6弱を想定)による大津波発生。
 - ・ 地震発生後90分後に海拔2～3m(満潮時)の津波が本県瀬戸内沿岸一帯に到達するため、迅速かつ安全に高所への避難を行う。【『山口県地域防災計画の見直し～東日本大震災を踏まえた計画の修正～平成24年1月』より】
- (2) 実施日
 - ・ 設定した期間中に、児童生徒の実態に応じて、クラスや学習集団単位で実施する。
 - ・ 期間中に実施できなかった場合は、後日行うこととする。
- (3) 避難場所
 - ・ 児童生徒の健康状態等により、「ソルトアリーナ防府」または本校高等部棟2階を選択して実施する。
- (4) 準備物
 - ・ 計時できるもの(腕時計等)を各自で準備する。
- (5) 事前指導(各担任から)
 - ・ 予め、避難訓練をする「集団の構成」と「実施日時の決定・調整」を各担任により行う。
 - ・ 各学級で発生時や避難時の心得を指導する。
 - ・ 地震発生時には窓や棚から離れ、危険から身を守ることを指導する。
 - ・ 「おさない、はしらない、しゃべらない」を徹底する。
 - ・ 避難経路を確認し、児童生徒の実態や活動場所によって適切な経路を選択する。
 - ・ 校外へ出る際は、下足に履き替え、怪我がないように指導する。必要に応じて車いす等を利用し、安全面への配慮を徹底する。
- (6) その他
 - ・ 訓練を行う単位(クラスまたは学習集団)は、各学部で計画して実施する。
 - ・ 特に校外への避難訓練(移動)を行う際は、交通事故や怪我が発生しないように、安全確保のために教員配置を十分に検討する。
 - ・ 訓練実施後は、実施した単位毎に、別紙アンケートに必要事項を記入して提出する。
- (7) 避難経路
 - ・ 本校を出発して、図中の矢印の経路を利用して訓練を実施する。
 - ・ 「ソルトアリーナ防府」の玄関に到着し、人員の確認ができた時を「終了時刻」とする。

(図)



3 訓練の成果と課題

【成果】 (アンケートより)

- ◇ 「安全にできた」「概ね安全にできた」とする回答が大半であった。
- ◇ 「ソルトアリーナ防府」への避難に要する時間は、平均で8分であった。
- ◇ 校門を出て海側へまわる経路①が、最も早く避難できた。
- ◇ 生徒の実態にあわせて、ゆっくりと避難したが、比較的短時間でスムーズに行えた。

【課題】

- ◆ いずれの経路も川沿いを通らざるを得ないため、満潮時・増水時には危険を感じる。川沿いのコンクリート壁を高くしてもらうことを要望する必要がある。
- ◆ 避難経路は狭い車道や車道沿いの道が多いため、災害時には交通が混雑しての危険を想定する必要がある。
- ◆ 生徒の体調や心理状態によっては、訓練のように早く避難できるかどうかの課題がある。
- ◆ 「ソルトアリーナ防府」に到着してから混乱の中、車いすの生徒を2階に避難させるまで、さらに時間を要すると考えられる。今後、「ソルトアリーナ防府」の2階への避難も実施する必要がある。
- ◆ 避難後、児童生徒の所在を保護者に伝える手段を確保しておく必要がある。